

日台稲門会会員の皆様

コロナ禍で大変ですが、元気にお過ごしのことと存じます。
さて、日台稲門会ニュースレター5月号をお届けします。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

1. 最近の話題

■ おいしいばかりじゃない台湾パイナップル

今年は日本が多く輸入して、人気を呼んでいる台湾産のパイナップル。台湾とゆかりのある会員のみなさんは、もう購入されたり、味わったりされたことと思います。ご存じのように、パイナップルは台湾では「鳳梨」と表記します。発音をカタカナで書けば、華語では「フォンリィ」という感じですが、台湾語では「オンライ」です。この「オンライ」は、発音がほぼ同じの「旺來」に通じるとして、縁起物でもあります。「旺來」は、「さかんになる」「いいことが起こる」といった意味で、「旺來」を願って、お供え物にもよく使われます。

お供え物では、「五果」といって、五種の水果を供えます。季節などによって組み合わせがあり、パイナップルが入る「五果」は、香蕉（バナナ）、李子（スモモ）、梨子（ナシ）、甘蔗（サトウキビ）、鳳梨（パイナップル）で、《招（蕉）、你（李）、來（梨）、呷（蔗）、旺（鳳）》・・・「あなたにいいことが起こりますように」という願いをこめたものです。

ただし、ご先祖の霊が帰ってくる中元節にはパイナップルはお供えしません。「旺來」は「よく来る」の意でもあり、ご先祖の霊がしょっちゅう来てもらっては困るということのようです。

コロンブスが西インド諸島の島で出遭ったことからヨーロッパに広まったパイナップルは、大航海時代の、オランダによるものか、17世紀半ばには台湾に伝わりました。そして、日本統治時代に栽培が盛んになり、パイナップルは台湾の庶民生活に根づいていきました。芯まで食べられる台湾パイナップル、5月がいちばんおいしいともいわれています。いいことが起こるよう願いをこめて、もっと台湾パイナップルを食べましょう。（柯嘉馬）



■ 台湾記憶彫刻展(臺灣記憶雕刻)を見て

日台稲門会も協力した台湾記憶彫刻展をみに『いりや画廊』に行ってきました。画廊というと絵画が多いというイメージですが、いりや画廊は立体作品が多いのに驚きました。素朴な彫刻が多く、特に夏愛華さんのセンザンコウや陳凱智さんのキリンは台湾時代よく行った桃園近くの鶯歌（インク）の町の素朴な動物像を思い出させてくれました。



夏愛華（センザンコウ像）



陳凱智（キリン像）

2. 台湾情勢

■ 台湾をめぐる情勢と日台交流

米中二大国の対立が続くなか、「台湾有事」がさまざまに語られています。

「あと6年以内に中国による台湾侵攻が起こる可能性がある」と、アメリカの軍人が語れば、「米軍が台湾防衛に加担すれば、中国は日本にある米軍基地を攻撃する可能性がある」と、中国側からの情報が流されるなどといったぐあいです。

日台稲門会は政治活動をする団体ではなく、日台交流を活動の大きな柱にしています。

しかし、平和な環境があってこそ国際交流です。

日本と台湾をめぐる状況を注視しつつ、「台湾有事」などということが現実にならないよう、平和への願いをこめて、私たちの一人ひとりが身を処していくことが求められている時だと思えます。（梶山憲一）

■ 中国が台湾に脅威をあたえるとき

1996年の総統選挙時も中国からの脅威を感じたが、。今から思えば、当時、中国の経済規模はまだ小さく（日本の6分の1）、台湾を攻撃したらその反動（アメリカからの反撃）の方が大きいので、実際に攻撃はできないが、台湾に恐怖を与えなければならないという自負心と使命感(?)を中国はもっていたと思えます。しかし、経済規模が日本の3倍に

なり、攻撃能力もついた現在、攻撃（暴爆？）の力はあると思います。ただ、中国がこわいのは、22年の冬季北京オリンピックのボイコットとアメリカの反撃。オリンピックは国力の誇示が目的であり、ボイコットされたらプライドは傷つけられてしまうため、オリンピック前には、口だけで行動することはないと思っています。また中国政府の方針は、中国国民の思いではないのではないかと最近感じます。（橋本紀明）

4. 台湾時代の思い出

■ ゴルフコンペとカエル料理

球技は苦手だが、台湾時代、台北稲門会ゴルフには毎回参加した。テイアップするとみんなの楽しいヤジが聞える。そうすると緊張してしまう。打った球がレディースティーの手前に転がり、またやんややんやの喝采。私は、毎回ブービーかメーカーだったが、宴会だけは楽しみだった。宴会では、よくカエルが出た。カエルのから揚げは、いつも山盛り。百貨店の中にあるスーパーにもカエルが売っていた。姿が分かると当然買わないが、宴会では分からないのでいつの間にか平気になった。（橋本紀明）

5. 台湾関連新刊紹介

- 昨秋、日台稲門会で講演された李登輝元総統の日本人秘書である早川友久さん（台北稲門会幹事長）が新刊を出されます。タイトルは『オードリー・タン 日本人のためのデジタル未来学』（ビジネス社、4月19日刊行）です。



（アマゾンより）

6. 編集後記

- 昨年、新型コロナウイルス学生支援として大学に寄付をした。ただ、不良OBなのであまり寄付はしないが、コロナの影響もあり、買い物に早稲田カードをひんぱんに使うようになった。購入額の0.5%が自動的に大学に寄付される。年20万円分クレカを使ってもたった1,000円だが、それでも0ではない。お店でものを購入しても現金なら大学には入らないが、クレカならちょっと入る。ささやかな大学への貢献（?）。